優　良　賞

「『本当の』十人十色の世界のために」

智辯学園中学校　一年　岡本　諭佳

私は、教室に入るなり、いつもこう思う。

今日もいつも通りの騒がしさだと。

でも、周りの人たちはそんなことに目もくれない。

私は、他の人より音に敏感だ。音と一概に言っても色々あるが、私は大きな音が気になる。とはいえ、大きな音の基準は人によって違う。授業中も休み時間も私にとっては騒がしい空間に思える。授業中、気になるような大きさの音が出ることは少ないが、休み時間はそうはいかない。それに、休み時間には、どうすることもできない事情がある。それは休み時間は、「みんなの休み時間」だということだ。休み時間は、みんな、自分なりの休憩をする。それを騒がしいと捉える私には異物感があった。異物感とは、自分だけ他の人とは違うと感じることだ。

どうして私はこうなのだろう、なぜ私だけと悩んだりもした。好きでこうなったわけではない。私は、辛くても全部を抱え込んでしまう癖がある。みんなにこの自分の状況を知られたくない。私のためにみんなの自由が奪われるのも嫌だった。でも、自分だけがみじめな思いをするのも嫌だった。そんな葛藤が私の中で渦巻いていた。

世の中では、人と少し違うというだけで、変に特別視する場合がある。例えば、不自由を抱えている人がいても、手を差しのべる前に珍しがって見ている人は多いと思う。私は、そんな風に人から見られたくない。誰だって見られたくないと思う。

「十人十色」という言葉があるが、みんなそうだと思う。例えば、赤が好きな人、野菜が嫌いな人、野球が好きな人、雨が嫌いな人がいる。みんな一人一人、特別な個性を持ちながら生きている。しかし、その一方で、世の中は平均を求めるあまり、我慢しなければいけない人を作ってしまっている。そして、周りと少し違うだけで、辛さを感じてしまう人が増えてしまうのではないだろうか。誰にだって悩みはある。ただそれが、周りと違うということで持ってしまった悩みなら、それは、持たなくて良い悩みなのではないだろうか。

自分の個性を解放するために大切な事――

それは打ち明ける勇気と、それを受け入れる優しさ、そして相手を思いやり尊重する心をお互いに持つことだと思う。私は、最近、自分が困ってしまった時には、自分の事情を話すようにしている。相手がどんな反応をするか、気になることもあるが、みんな理解してくれる。しかも、その時だけではない。打ち明けた以降は、私の様子を見て、優しく声をかけてくれる。そして、私の苦手なことがあれば、手伝ってくれる。また、私も、自分の得意なことで、みんなを助けることができる。まさに、「お互いさま」だと思う。「お互いさま」だと思うと、気持ちがすごく軽くなる。

「本当の」十人十色に向かう時、一人ひとりの感性は宝物だ。感性の豊かさ、感性の美しさを認め合い、理解し合うことが大切だ。そのことを忘れないでいることができれば、みんなが過ごしやすい優しい世の中になっていくと思う。そうなれば、一人ひとりの悩みも軽くなるだろう。私も、自分の個性を愛していきながら、みんなの個性も愛していきたいと思う。みんなの違いこそ素晴らしいのだから。